

地域福祉活動計画は、各市町村社会福祉協議会（以下社協）が地域に呼びかけ、地域の困りごとの解決策などを住民が主体的に話し合い作り上げていくものです。この計画は、住み慣れた地域で行政と住民が一体となって支え合う総合的な地域福祉推進のために策定する地域福祉計画と車の両輪のように密接な繋がりがあります。県行政でも市町村を応援する「とくしま・福祉のきずな・サポートプラン」で地域福祉の推進に向け取り組んでいます。

徳島県社協では、県内全市町村社協での地域福祉活動計画策定を目標に、本年度は阿波市、吉野川市、海陽町の各社協をモデル地区として支援を行っています。各会場の住民座談会の様子を写真でご紹介します。

また、県下の各市町村社協には住民の声がきっかけとなった事業が実践されている例が数多くあります。地域福祉推進は、行政あるいは専門機関だけが担うものではなく、住民が主体的に取り組み、地域の福祉環境を整え地域力向上を図ることが必要です。そして、その力を引き出すことは市町村社協の役割です。

徳島県社協では、今後も市町村社協や福祉関係者と協働して、だれもが安心して暮らせる町づくりを積極的に進めていきます。



社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
 770-0943 徳島市中昭和町1丁目2番地 徳島県立総合福祉センター内
 tel: 088-654-4461 fax: 088-654-9250
 e-mail: info@e-fukushi.jp http://e-fukushi.jp

住民の声から 地域力の向上へ

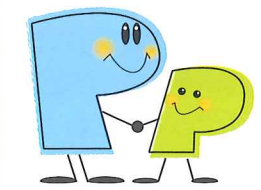


RIPPLE リプルとは、波紋のことです。

この広報紙は、赤い羽根共同募金の配分金により発行されています。



とくしま県民活動プラザ
 770-0873 徳島市東沖洲2丁目14番地
 沖洲マリンターミナルビル1F
 tel: 088-664-8211 fax: 088-664-5345
 e-mail: info@plaza-tokushima.com
 http://www.plaza-tokushima.com
 http://www.tokuvv.jp



マスコットキャラクター プラザ

NPO 法人 「里業（さとぎょう）ランド木頭」



美しい那賀川の源流、高知県との県境に位置する那賀町の旧木頭村地域では、高齢化により、ゆず栽培の管理者・従事者・後継者が不足しています。そこで立ち上がったのが、NPO法人「里業（さとぎょう）ランド木頭」。NPO法人による自然循環型農林業の普及や、特産品である「木頭ゆず」の品質アップ・安定供給への取り組みをご紹介します。



高石理事長（中央）と斎藤監事（左）、事務の西田さん（右）



有機JAS認定の木頭ゆず

「(株)きとうむら」とは

公共事業に頼らない自立した地域経済の実現を目指して、1996年に旧木頭村の第三セクター会社として発足。2002年に地域住民に株のほとんどを譲渡し、現在は住民と行政とが株を持ち合う形となっています。国産・無添加・手作りの、木頭地域の自然と文化が感じ取れる商品の開発と製造、販売を行っています。



地域の特産品を販売している「きとうむら」

●●●● NPO法人 ●●●● 里業(さとぎょう)ランド木頭

NPO法人「里業ランド木頭」は、2003年頃から任意団体としてゆず農地の管理や収穫などの活動しており、2007年3月にNPO法人として正式に発足しました。初代理事長(現監事)の斎藤計六さんに、当時のことをお聞きしました。

「(株)きとうむら」への栽培支援

NPO法人設立のきっかけは、地域の産業振興や雇用の担い手である、「(株)きとうむら」への支援が必要となったためです。「(株)きとうむら」では、木頭ゆずを仕入れて様々な製品を製造、販売していますが、ゆずの入手が困難になった時期があります。

原因は、県内の個人業者が農協より高値で、農家から直接現金買取をするようになったためでした。これは、木頭ゆずの品質が良かったからだろうと思います。

ゆずの安定供給のため、農家の方に「(株)きとうむら」へ積極的に出荷してもらえるようお願いをする中で、高齢化で栽培困難な畑を手伝ってほしいという新たなニーズが掘り起こされ、NPO法人で栽培支援に取り組み始めました。



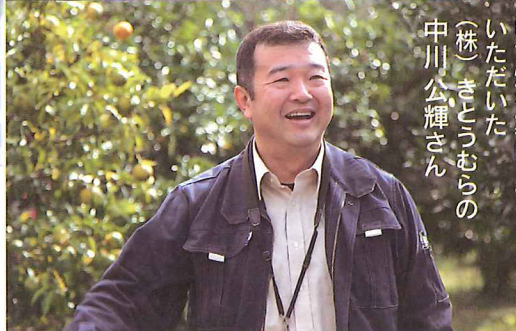
斎藤 計六さん
「きとうむら」の店内でお話を聞く



シカ食害の対策が重要になっていると語る理事長の高石 康夫さん



那賀町地域おこし協力隊
農林資源振興担当・木頭地区
担当の細貝 旬さん



ゆず畑を案内していただいた
(株)きとうむらの
中川 公輝さん



(株)きとうむらの仕事をしつつ、NPO法人の事務も手伝っている西田 幸子さん

里業ランド木頭で活躍する人たち



現在の取り組み



堆肥づくりのためのカヤを刈る



ゆずの搾りかすとカヤだけで肥料作り



積み上げたカヤ



木頭ゆず、及び、ゆず製品の価値を高めるため、県の「とくしま安²(あんあん)農産物」の認定を受けたり、「有機JAS認証農産物」、「GAP特別栽培農産物」などの付加価値の高いゆずの栽培方法を取り入れ、自然循環農業を実践しています。

無農薬、無化学肥料、無動物由来肥料の「ムムム栽培」で、市場を開拓中です。

有機JAS(有機食品のJAS規格)

JAS法に基づき「有機JAS規格」の検査認証を受けた農産物だけが、有機農産物と認められています。栽培方法が難しく、現在、有機JAS認定されている農産物は全体の0.2%と言われています。

GAP特別栽培農産物

食品安全GAP(食品安全、環境保全、労働安全、品質向上などさまざまな目的で、「適切な農業生産」を実施すること)の考え方を取り入れて、化学合成農薬および化学肥料の窒素成分を、慣行レベルの5割以上削減して生産する栽培方法です。

とくしま安²(あんあん)農産物

消費者に安全・安心な農産物を提供するために、徳島県が農作物の生産・品質管理体制(農場)を検査・認定する制度です。「食品安全」に加え、「環境保全」や「労働安全」にも配慮した、優れた農業生産体制で生産された農作物で、「誰が、いつ、どこで、どのように生産したのか」などの生産情報を確認することができます。

ゆず石けんづくり

また、自然循環型農林業を推進するため、「木頭環境文化祭」の開催や、ワークショップ事業として廃油による「ゆず石けん」づくりにも取り組んでいます。



牛乳パックで固める

今後の取り組み

平成25年度は、県の「NPO雇用能力ステップアップ事業」を受託し、NPO法人の人材雇用能力の向上と、地域雇用の創出にも取り組んでいます。

10月からは、NPO法人の職員として竹岡さんを新規に雇用しました。草刈り、収穫、剪定などを行っていただくとともに、接ぎ木や有機JASの栽培方法を身に付け、技術を伝える役割も担っていただきます。



竹岡さん



下草刈りの作業

NPO法人
里業(さとぎょう)
ランド木頭
理事長 高石 康夫

〒771-6402
徳島県那賀郡那賀町木頭出原字ヨコマチ 23-2
TEL : 0884-68-2212 FAX : 0884-68-2277
Web : <http://npokito.com>
Mail : npo@kitomura.jp



地域に根付いた活動を



保育所は6時まで。それ以降も子どもを預かってほしいけど、そんな場所を探しても見つからない。そんな「あったらいいな」のママ友の声に立ち上がったのが、NPO法人ママーズの理事長、佐々木美代さんです。

「無いのなら、自分で立ち上げようと思ったんです」そう語る佐々木さんは当時、自身も子育て真っ最中でした。子育て中のお母さんの得意分野は育児。それを活かし、かつ、那賀町の活性化につながるようにと、日々活動を続けています。

設立から3年、昨年からは本格的に活動を始めたママーズでは、依頼会員（子どもを預かってほしい人）と提供会員（預かることのできる人）をつなぎ、子育て中のお母さんをサポートする那賀町オリジナルの「ファミリーサポート事業」をNPO法人主体で行っています。ここで佐々木さんは、主にアドバイザーとして会員どうしをつなぐ役割を担っています。

町には大きな工場などがあり、町外からたくさんの方が来られます。その方達が子育てをする中で、疎外感を感じることがなく、馴染めるようにサポートをす



NPO法人ママーズ
代表 佐々木 美代さん

る。那賀町を、お母さんたちのつながりで盛り上げたい。そんな思いを胸に活動をしています。

「お母さんたちが無理をせず仕事をし、余裕を持って子育てをすることで、いい循環が生まれてくると思うんです」と佐々木さん。お母さんたちのペースで那賀町での生活を送っていけるように、長くサポートしていきたい。「細く長く続けていけたら」とおっしゃっていました。子育て中のお母さん達が、「住みやすい」「住んで良かった」と思ってくれるような地域にするため、地域に根付いた活動をこれからも続けていきます。

左の写真にある大きなイチョウの木。これは、佐々木さんが小学生の頃からこの場所にあったものです。「この地域から、この地域に根付いて—」そんな佐々木さんの思いを表すかのように、この地にどっしりと根を下ろしているイチョウの木は、彼女にとってシンボルのような存在なのだそう。

NPO 法人ママーズ
連絡先：090-9778-4977（佐々木さん）

美波町をキャンパスにして「地域活性化」

なかひがし さとる

特定非営利活動法人 日和佐まちおこし隊 理事長 中東 覚

かつて我が国が右肩上がりの経済状況下にあった昭和40年代、室戸阿南海岸国定公園のシーサイド・スポットとして建設された「南阿波サンライン」も時代の流れとともに観光道路から一般県道となり、町内にあった県立高校2校が廃校になり、町中に若者の姿がめっきり見えなくなったことで過疎・高齢化をひしひしと感じるようになってきました。そこで、若者の目線から発見した地域の魅力や活性化策等を住民に発表していただくと同時に、学生に継続的に町を訪れてもらい町の活気づくりにつなげていく「地域がキャンパス」事業をはじめました。

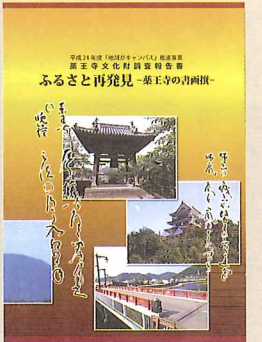
県南部総合県民局と我々 NPO法人、町、大学等9団体が中心となり、「地域がキャンパス推進協議会」を立ち上げ、平成24年度より3ヶ年事業としてスタートしました。

平成24年度は、四国大学の「薬王寺の所蔵品と仏画・屏風・襖絵等の調査結果」を冊子にまとめました。徳島文理大学からは、「観光振興

策の提案と被災後の漁業早期解決策について」の提案をいただきました。平成25年度事業は、四国大学で引き続き「薬王寺における文化財調査」と「弘法寺の法印さんの調査」を、徳島文理大学では「美波町志和岐地区における津波避難マップの作成について」と「美波町のプロモーションビデオ制作について」、また、徳島大学では、「地域再発見・異文化キャラバン隊～漁村・農村の祭に参加してみよう」による留学生の日和佐地区の祭り

への参加など、地域をキャンパスにした事業を実施し、地域活性化を図っているところです。

中東覚さん
美波町の歴史を掘り起こし地域振興を図る協議会 遊元快者（ゆうげんがいしゃ）会長
地域がキャンパス推進協議会会長
—美波町の地域資源を生かして、若者も高齢者も日々目的を持ち生き生きと暮らせるまちづくりの実現のために、まちおこし活動に取組中—



ボランティアコーディネーターは難しい！！

美馬市社会福祉協議会 主事 井口 こはる

ボランティアコーディネーターとして2年目になりますが、全国社会福祉協議会発行の社協ボラセンナビを読みながら、私がしていることは本当にこれで良いのかといまだに頭をひねりながらボランティアって難しいと日々感じています。

今年度新しいボランティアさんを発掘しようと、「これからボランティアを始める方のボランティア講座」を開催し、私も一緒に勉強させていただきました。

プログラム最終の講義で講師から受講者の皆さんに、「美馬市社協にもボランティアセンターがあるの知っていますか?」と質問されたとき、受講者の中から「そんなあるんえ」と言われてしまいました。つづいて「センター

にはボランティアコーディネーターがいて、今誰が担当しているか解りますか?」と質問され、会場の空気を読んでくれた受講者さんが「・・・井口さん?」と言ってくれたとき、「あ～、美馬市ではボランティアセンターが市民にとって全然浸透されていない」としみじみと実感しました。

どうすれば住民参加型のボランティアセンターとなるのか、また、市民にボランティアセンターがPR出来るのか。上司や職場の仲間に相談しながら、ボランティアさんの持っている能力を引き出す力を身につけ、活動の場づくり、双方向性の活動のための気づきや学びの機会を提供し、人の輪を広げたり、つなげたりしながら地域の課題解決、住みやすいまちづくりに向けて、センター機能の向上を目指したいです。

住民主体のボランティア活動となるように、側面的な支援を心がけ、市民とともに活動を広げていきます。奥深く、難しいけれどやりがいのあるボランティアコーディネーターを自分のものとしていきたいです。



中学生による避難シミュレーション体験 中学生による高齢者疑似体験学習

●子どもが生き生きとはたらくまち「ぶらざタウン」参加団体募集
～子どもたちといっしょにまちづくり～

日時：平成26年2月23日(日) 9:45～16:10
場所：沖洲マリンターミナルビル
内容：小学3～6年生の子どもたちが、県内のNPOやボランティアの活動を、それぞれの団体から直接教わりながら体験できる「ぶらざタウン」を開催します。「ぶらざタウン」の住民となって、子どもたちと活動したい団体を募集します。子どもたちといっしょに「ぶらざタウン」をつくってみませんか。

募集締切：平成26年1月5日(日)



<プログラム>

9:00～ 9:45	準備
9:45～10:00	オリエンテーション
10:00～11:15	NPOボランティア体験①
11:15～12:00	ステージ発表
12:00～12:50	製品販売・昼食
12:50～13:00	休憩
13:00～14:15	NPOボランティア体験②
14:15～15:00	ステージ発表
15:00～15:30	製品販売
15:30～16:00	片づけ
16:00～16:10	閉会式・解散

<活動例>

- ・子どもたちと食べ物や小物などを制作して販売してみませんか!
- ・子どもたちと体験活動の場の設営・運営をしてみませんか!
- ・子どもたちと、活動の練習をして発表をしてみませんか! ※詳しくはとくしま県民活動プラザまでお問い合わせください。

ご
あ
り
が
い
ま
す
う
預
託

●とくしま食育推進研究会様より、有料老人ホームエクセレント徳島へ、高齢者の口腔ケア・食育指導のご提供 ●徳島県阿波牛販売推進協議会様、徳島県食肉荷受株式会社様より、県内児童養護施設7ヶ所へ阿波牛肉のご寄贈 ●株式会社損害保険ジャパン・AIRジャパン徳島支部様より、徳島赤十字ひのみね総合療育センターへ車いす清掃のご提供 ●公益社団法人徳島県文化振興財団様より、県内社会福祉施設へ、阿波人形浄瑠璃芝居フェスティバルへのご招待 ●四究会様より、徳島赤十字ひのみね総合療育センターへ軽量車いす2台のご寄贈 ●公益財団法人徳島県生活衛生営業指導センター様より、特別養護老人ホーム鳴光荘へそば打ちの体験と試食、社会福祉法人勝寿会へ理容、障害者支援施設有誠園へシルバードメイクのご提供 ●特定非営利活動法人日産労連NPOセンター「ゆうらいふ21」様より、県内社会福祉施設へ、第38回クリスマスチャリティ公演へのご招待 ●四国電気保安協会労働組合徳島県支部様より、特別養護老人ホームコンフォール貞光へ自走式車いす1台のご寄贈 ●ニューライフ・アドベンチャー運動実行委員会四国地区様より、ケアハウス健祥会ひまわりへ軽量車いす1台のご寄贈

【平成25年度】

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

ボランティア活動保険

Aプランは、死亡1,200万円、入院6,500円、通院4,000円、賠償責任5億円(限度額)を補償



特徴は

- 活動場所と自宅との往復途上の事故も補償!
- 熱中症(日射病・熱射病)による障害も補償!
- ボランティア自身の食中毒や特定感染症も補償!
- 地震など天災によるケガも補償(天災タイプご加入の場合)

年間 基本タイプ Aプラン...300円 Bプラン...450円
保険料 天災タイプ Aプラン...460円 Bプラン...690円

※各プランの補償金額、補償内容などの詳細は、専用のパンフレットをご用意しておりますので、最寄りの社協にお問い合わせください。

お申込み、お問合せは、あなたの地域の社会福祉協議会へ

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

この保険は、全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763
受付時間：平日の9:30～17:30(12/29～1/3を除きます)
(引受幹事保険会社) 日本興亜損害保険株式会社

全国180万人
加入!!

http://www.fukushihoken.co.jp

ふくしの保険 検索

ボランティア行事用保険

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行われる各種行事におけるケガや賠償責任を補償!

福祉サービス総合補償

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償!

送迎サービス補償

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償!

イベントガイド

「第13回ボランティアコーディネーター
研究集会 in とくしまNPOフォーラム」のご案内

今回の研究集会は、「四国の元気 いま!つなごう」をテーマに、「人づくり」「資金づくり」「ネットワークづくり」をとらえてコーディネート力の向上を目的に開催します。

日時：平成26年2月2日(日)

10:00～16:00

場所：徳島県立総合福祉センター

5階ホールほか

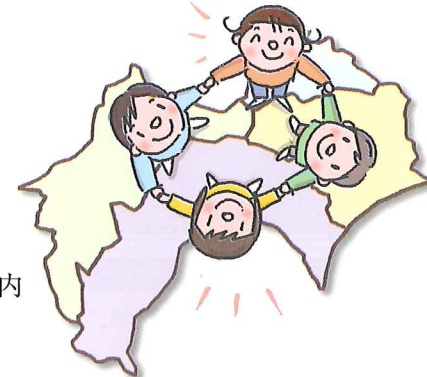
参加費：500円

お問い合わせ

とくしまボランティア推進センター内

実行委員会事務局

TEL:088-664-8211



平成25年度 災害ボランティア講座

地域防災力の強化のため、日ごろの取り組みと備えの重要性、そして災害時のボランティア活動等に理解を深め、県民の防災意識の向上を目的に開催します。

日時：平成26年1月19日(日)

13:30～16:00

場所：徳島県立防災センター

板野郡北島町鯛浜字大西165

TEL:088-683-2100

参加対象：災害時のボランティア活動等に

興味のある方(定員80名)

※定員になりしだい、締切らせていただきますので予めご了承ください。

お問い合わせ

とくしまボランティア推進センター

TEL:088-664-8211



9月20日
福知山市戸田地区での支援活動



助成・支援

LUSH チャリティバンク(東日本大震災復興支援)

◆募集時期：2ヶ月に一度、偶数月の月末を応募締め切りとします。

(当日消印有効)

2月末日、4月末日、6月末日、8月末日、10月末日、12月末日

◆助成金額：10万円～200万円

◆助成対象：・被災地の復興支援活動

・被災された方たちへの支援活動

◆問い合わせ：株式会社ラッシュジャパン チャリティバンク事務局

〒108-0075

東京都港区港南2-4-15 品川サンケイビル4F

TEL:03-5781-9567(月曜～金曜 11時～17時)

E-mail:charity@lush.co.jp

URL:http://www.lushjapan.com/ethical/charitybank/



にしもと きょうこ
西本 京子さん

世界に通用する阿波女

西本さんは日本・徳島だけでなく、東南アジアから全世界までのビジネスをサポートするコーディネーターです。日本でも屈指の有名アーティストのマネージャーをしていたこともあり、世界中に様々なジャンルの友達がいます。

彼女が行くところにはいつもステキな花が咲きます。友人の経営する徳島ラーメン店が台湾進出を計画して視察に行った時のことです。普通ならば街並みや流行っているラーメン店の視察で終わるところ、彼女のネットワークで紹介された飲食店のオーナーと会うことに。そしたらなんとその飲食店で思いもよらずに試食会が始まり、そこにいたのがなんとテレビ局のディレクター、是非テレビでもということできなりテレビ出演が決まってしまうほど。

こんなサプライズが世界中いたるところで起こってしまう彼女の魅力と行動力はハンパないです。この行動力を生かし、HIP(四国を愛する人たちのネットワーク)のスタッフとして、阿波藍や農産物、お酒など、徳島の素敵な物を世界に発信し、「四国」という島を応援するプロジェクトを展開しています。

彼女自身がまさに世界でも通用する阿波女になっていくのではないのでしょうか。



おかだいくろ
文・岡田育大



NPO・ボランティア団体と教職員・学校をつなぐ!

今年度、とくしま県民活動プラザでは、子どもたちを中心に協働した取り組みが進められるように、NPO・ボランティア団体と教職員・学校をつなぐ活動を行っています。

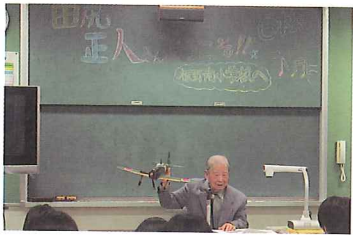
●「プラザ・サロン」の開催

10月19日 徳島県教育会館。「引きこもり、不登校、子どもの悩み」をテーマに、NPO・ボランティア団体（8団体13人）、教職員（小中学校教諭、養護教諭21人）が参加し、開催しました。各団体の活動報告の後、小中学生の置かれている状況や取組についての情報交換をグループに分かれて行いました。



●「平和と戦争について考える」授業の開催

10月31日 板野南小学校。阿波花火師有志の会（会長 澤内健司さん）の活動紹介の一環として、田尻正人さん（元徳島白菊特攻隊員 徳空会会長）を、ゲストティーチャーにお招きして社会科の授業に参加。昭和20年5月23日、松茂の旧徳島海軍航空基地から飛び立った「徳島白菊特攻隊」のことを、6年生の子どもたちに語っていただきました。



●「子育ては社会を立て直すキーワード」教育講演会への参加

12月21日 アステいとくしま 2階 第6会議室

主催：徳島県教育文化研究所

講師：越智孝道さん（指定障害者支援施設 希望ヶ丘 施設長）

「人は愛されることで心が育っていく、愛された経験がないと心の成長がストップする」

施設で出会った子どもたちの心の叫びを訴える越智さんのお話を、教職員のみなさまとともに聞きしました。

編集後記

振り返ってみると、5月にプラザに来てから、様々なイベントやボランティアに参加する機会に恵まれ、とてもいい経験ができていくように思います。特に印象に残っているのは、なんといってもこの広報誌の取材です。初めて体験することばかりで、協力して下さった方々にはご迷惑をおかけしたかもしれませんが、自分たちが取材してきたものが形になり、少しでも魅力を伝えるお手伝いができることを嬉しく思っています。本誌が発行されるのはクリスマス前。そう考えると1年が経つのは本当に早いです。悔いが残ることが（できるだけ）無いように過ごせていけたらと思います。（山本）

とくしま県民活動プラザ

●プラザは、ボランティア・NPO・地域づくりなど、県民の皆さんの自主的、自立的活動を総合的に支援する拠点として平成14年にオープンしました。運営は(特非)とくしま県民活動プラザと(社福)徳島県社会福祉協議会・とくしまボランティア推進センターが協力して行っています。

4つの機能で応援

1.情報収集・提供

団体のチラシや会報、活動がわかる情報を広く発信。また、企業・行政の助成金・各種研修会などの情報や関連図書・ビデオも収集しています。(ホームページ、広報誌、図書コーナー、団体情報、各種助成情報)

2.活動・交流の場

グループでの会議や活動のPRに必要なチラシやポスターなどの作成のため設備を整えています。(ミーティングコーナー、会議室、パソコン、コピー機、作業室)

3.相談・支援

ボランティア・NPOに関する質問・ご相談にお応えします。

4.人材育成・研修

団体が力をつけるための研修会やイベントを実施します。(各種講座、NPOフォーラム、NPO・ボランティアフェア)

●プラザ開館時間

開館時間:10:00~18:00

【研修室利用時間】

火曜日~土曜日:10:00~21:00

日・祝日:10:00~18:00

休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始



●公共交通機関をご利用の場合

JR徳島駅前、徳島市営バスターミナル6番のりばより、

・「中央市場」行きに乗車 終点「沖洲マリンターミナル」下車すぐ

・「沖洲・南海フェリー前(マリンピア経由)」行きに乗車「マリンターミナル前」下車すぐ

ご存知ですか?10代の子どもボランティア活動 TIC(ティーンズインコミュニティ) 運動について

※ TICは (Teens [10代の少年少女] In Community [地域の中で]) の意味です

TIC運動とは

TIC運動は、子どもたち自身だけでなくボランティア活動をしたいか計画し、サポーター(子どもたちの活動を支える大人のボランティア)に協力をしてもらいながら自主的・自発的にボランティア活動を行うものです。ボランティア活動を通じて子どもたちの生きる力と地域社会に参画できる環境づくりを推進することで、将来のボランティアの担い手を育て地域が活性化することを目指しています。

「子ども達にとって貴重な体験の場を」 TIC運動推進委員会委員長 日開野博氏
地域社会から子どもたちの姿が消えて久しい状況です。今日、学校・家庭等において、子どもたちは管理され閉じこもりがちです。今、子どもたちには地域社会の中で、自由に自分の意志でボランティア実践を行う場所が必要です。TIC運動は、子ども達が主役となって地域社会の生活課題等に取り組み、ボランティア活動をおし、社会性、人間性、創造性を養う環境をつくる場です。みなさん、是非、町や村で子供たちの活動とその仲間づくりを多にすすめていき地域で子供たちを育てる「まちづくり」を進めていきたいと思います!



平成25年度 10代のボランティア活動報告会 平成25年9月8日(日) 沖洲マリンターミナルビル 2F マリンホール



鳴門教育大学フレンズの活動について

鳴門教育大学フレンズのみなさん
東徳島医療センター療育訓練棟への訪問、「重症心身障害児(者)を守る会」行事への参加等について報告



目指せ! なてしチャレンジプロジェクト

(一社)徳島青年会議所 SFC青少年委員会 委員長 黒部さん
団体スポーツを通しての青少年のコミュニケーション不足解消を目的に、女子サッカーを切り口にした活動等について報告



学生の力で ゴミ拾いを変える、徳島を変える

グリーンバード徳島 徳島大学 小鳥さん
「ゴミ拾いはちよつと…」という学生の意識を変え、若者が参加しやすい環境づくりを目指す活動について報告



私たちのまちを より楽しく

海陽町ミツケ&夢たらこのみなさん
清掃ボランティアで見つけた風船メッセージが縁で広島のボランティアグループ「ひまわりの会」から送られたひまわりの種を育て、国道沿いの花壇に定植した活動等について報告

徳島県医師会は「禁煙」を推進しています!



一般社団法人
徳島県医師会

会長 川島 周
徳島市幸町3丁目61番地
TEL 088-622-0264

CLEANUP 吉野川をきれいに! 参加団体、募集中。

吉野川交流推進会議
〒770-8570 徳島市万代町1丁目1番地
徳島県民サービスセンター内
TEL 088-621-2743
FAX 088-621-2822
E-mail office@yoshinogawa.org/
http://www.yoshinogawa.org/

SHIKOKUSABURGU YOSHINO GAWA We ♥ Yoshinogawa

これからも、いつまでも
頼りがいのある銀行として、
地域のみなさまとともに歩んでまいります。

みなさまの「にころ」のメインバンクへ

阿波銀行
http://www.awabank.co.jp/

環境にやさしい銀行を目指し
環境保全活動に取り組んでいます。

ISO14001認証取得
(登録範囲は本店)

つぎあえばとくぎん
徳島銀行
http://www.tokugin.jp

「子どもは地域の宝！」 守り育てるしくみづくり

牟岐町社会福祉協議会

「おひさまスクール」



「おひさまスクール」は、町内に託児所や学童保育がなく、困っていたお母さんの声から、小学1〜3年生を対象に平成21年4月から始めました。今では子どもたちの放課後の宿題や安全な遊びの場として大切な役割を担い、親の帰宅が遅い家庭の子どもを登録者の家で預かりする社協の受託事業「牟岐町おひさまサポートセンター事業」との連携で子育て支援を推進しています。



枘富局長



「おひさまスクール」
夏の行事



地域の声を 地域の力で



松ぼっくりや貝殻で
クリスマスツリー作り

松ぼっくりや貝殻は地域のボランティアから提供

「おひさまスクール」利用者の声

- 安心して働けます。
- 安心、安全、健康的な子供の居場所があることは女性の社会進出には欠かせません。
- 年齢の違う子どもたちと交流することにより、子どもの社会性が開拓されると思います。子育てを一人で抱え込まない安心感があります。
- 万が一の時に、頼れる場所があるのはありがたいです。



ひとりの笑顔はみんなの笑顔

北島町社会福祉協議会 「小地区ふれあい会」

社協は住民主体での地域福祉の推進をめざし、従来の制度では対応が難しい様々な課題や問題に、住民や関係者と協働して解決していく活動に取り組んでいます。今回は、地域住民の声がかきつけとなり、実施することとなった社協の事業について紹介します。

事務局の
みなさん
大集合！



「私も楽しみにしてるんですよ。笑顔がいっぱいで笑い声があふれています」と北島町社協の池森さん。平成17年3月に北島町で一人暮らしの方の孤独死があり「これではあかん」と感じた住民の方が、気軽に寄り合える場づくりを始めました。その後、社協の介護予防と社会参加支援と位置づけ、平成19年度に当初4カ所であった「小地区ふれあい会」も現在11カ所まで広がっています。

「この会は、地域のみなさんの声が直接開けて社協にとっても重要です。今後は囲碁ボールなどを通じて、繋がりを深めていければと思っています。ふだんから住民同士の繋がりができるので災害時にも有意義。この会が地域の問題を地域で解決していける仕組みにしていきたい」と倉本局長は力強く語られました。

囲碁ボールで 繋がる 笑顔の輪



地域を元気にGO!!
徳島県の取り組み!!

「とくしま
福祉のきずな」
サポートプラン」

徳島県保健福祉部
福祉こども局地域福祉課
主事 森吉 智也さん

近年、少子高齢化や核家族化、個人の価値観の多様化等により、地域の相互扶助機能が弱体化するなど、地域社会の状況が変化する中で、高齢者の孤独死や児童虐待、家庭内暴力などの問題が発生しています。

このような状況に対応するため、住民に身近な市町村の役割が増大しており、地域住民が地域福祉の推進に積極的に参画することが求められています。

徳島県では、広域的な見地から市町村の地域福祉の推進を支援するための県における取組の基本的な考え方・方針を示した「とくしま 福祉のきずな」サポートプラン（徳島県地域福祉支援計画）を平成24年3月に策定し、市町村における取り組みを支援しています。